

社会福祉法人よるべ会

令和2年度事業報告書

令和3年3月31日

# 【社会福祉法人よるべ会】 令和2年度 職務執行状況報告書

## 〔1〕年間計画の執行状況について

令和2年度は2度に亘る緊急事態宣言とその延長等、新型コロナウイルス感染症への対応に迫られ、未曾有の困難に直面しました。法人内においては、職員をはじめとして全ての関係者の努力と協力により感染を出さずに一年を終えることが出来ました。各施設・事業所では日常的な健康・衛生管理の徹底、消毒や換気、飛沫防止等の対策、そして様々な活動や行事の縮小・中止等利用者の皆さんには我慢をお願いして感染を防止する対策に取り組んできました。

改めて「命や健康を守ることの大切さ」「当たり前の暮らしや社会参加の機会・場所を持ち続けることの重要性」を認識させられた1年でした。

### ①権利擁護の確立

- \*事業所各々の報告・検証の実践、研修会等
- \*品質委員会での報告・検証
- \*リモートによる法人内研修会の実施

### ②人材確保・育成への取組

- \*初任者研修の実施
- \*チュータ制度による新任職員養成
- \*人事考課の実施
- \*ホームページ・メディア等求人の継続実施

### ③地域社会の連携

- \*コロナ禍より主な活動・行事等中止

### ④業務の検証と改善

### ⑤監理体制の強化

### ⑥職員労務管理の改善

- \*各月の運営会議・ISO品質委員会等をリモート会議で実施（密集密接予防）
- \*執行委員会・執行責任者会等で報告・検証・改善を図った

〔2〕事業運営（令和3年3月31日現在）

【事業運営】（令和3年3月31日現在）									
事業所名	よるべ沼代 （障害者支援施設）		コスタ・二宮 （障害者支援施設）		梅香園 （障害者支援施設）		わらべの杜 （福祉型障害児入所施設）		
実施事業	施設入所支援	定員40名 (現員40名)	就労継続支援 B型	定員20名 (現員26名)	就労継続支援 B型	定員18名 (現員23名)	施設入所支援	定員40名 (現員39名)	
	生活介護	定員40名 (現員42名)	生活介護	定員20名 (現員24名)	生活介護	定員22名 (現員26名)	短期入所	定員4名	
	短期入所	定員4名							
	計画相談支援	契約 240名							
事業所名	障害者支援センターぼけっと （就業・生活支援センター）		かめりあ・ポラリスホーム （計 8 棟）		あずさの家 （計 3 棟）		どーむ （児童発達支援事業所）		
実施事業	就業・生活 支援センター	登録 478名	かめりあ ホーム(6棟)	定員 33名 (現員 33名)	あずさの家 ポプラの家	定員 21名 (現員18名)	児童発達 支援事業	定員10名 契約28名	
	地域就労 援助センター		ポラリス ホーム(2棟)	定員 13名 (現員 12名)	わたくも				

〔3〕理事会・評議員会開催状況

\*監事監査 令和2年6月3日

\*理事会

開催日	議案	出席者
6月11日	第1号議案 令和元年度事業報告(案) 第2号議案 令和元年度計算書類及び財産目録(案) 第3号議案 神奈川県指導監査・実地指導結果報告 第4号議案 預り金管理規程(案) 第5号議案 令和2年度第1回評議員会開催について	理事 7名 監事 2名
10月22日	第1号議案 令和2年度資金収支第1次補正予算(案) 第2号議案 「どーむ」運営規程の改定(案) 第3号議案 令和2年度第2回評議員会開催について	理事 6名 監事 2名
3月11日	第1号議案 令和2年度資金収支第2次補正予算(案) 第2号議案 令和3年度事業計画(案) 第3号議案 管理者の任免 第4号議案 令和3年度当初予算(案) 第5号議案 諸規程の改定(案) 第6号議案 令和2年度第3回評議員会開催について	理事 7名 監事 2名

\*評議員会

開催日	議案	出席者
6月26日	第1号議案 令和元年度計算書類及び財産目録(案)	評議員 8名 監事 1名
10月30日	第1号議案 令和2年度資金収支第1次補正予算(案)	評議員 8名
3月19日	第1号議案 令和2年度資金収支第2次補正予算(案) 第2号議案 令和3年度事業計画(案) 第3号議案 令和3年度当初予算(案)	評議員 7名 監事 1名

〔4〕 契約・入札処理及び固定資産について

\*よるべ沼代食堂床張替工事 (株オフィスコジマ・305万円)

〔5〕 法人全体職員状況

【法人職員状況】 (令和3年3月31日現在)																
職種	よるべ沼代		コスタ・二宮		梅香園		わらべの杜		ぼけっと		かめりあ・ボラリス		あずさの家		どーむ	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
管理者	1(兼)		1(兼)		1(兼)		1		1(兼)		1(兼)		1(兼)		1(兼)	
サビ児管	1(兼)		1(兼)		2		1				2		1(兼)		1	
医師																
看護師	1(兼)		1(兼)		1(兼)		1(兼)									
栄養士	1(兼)		1(兼)		1(兼)		1(兼)									
生活支援員	13	9	3	4							2		2			
支援員			4	4	8	3			7	1						
保育士							5	4							1	2
児童指導員							9	14								1
相談支援専門員	3															
世話人											2	20	3	10		
運転手						2	1									
事務員	3				1											
その他						3		1								

〔6〕 主な会議等

会議名	開催日
全体職員会議	7/11・9/26・11/28・2/12・3/13
執行委員会	4/14・5/16・6/16・7/14・8/19・9/15・10/13・11/24・12/8・1/6・2/9・3/30
執行責任者会	4/28・5/26・6/30・7/28・8/19・9/29・10/27・11/12・11/24・12/22・1/26・2/15・2/24・3/2
運営会議	4/1・5/1・6/16・7/14・8/19・9/15・10/13・11/12・12/8・1/12・2/9・3/9
ISO品質委員会	4/28・5/26・6/30・7/28・8/19・9/29・10/27・11/24・12/22・1/26・2/24・3/30

〔7〕 労働安全衛生

\*職員健康診断を実施 (7月1・9日)

〔8〕 広報活動

- \*かわら版 2回/年 夏号8月発行 冬号1月発行
- \*ぼけっと通信 3回/年
- \*ホームページ 順次更新

〔9〕法人行事・研修等

令和2年度 行事・研修等		
月	行事・家族会他	理事会・研修会他
4	1(水) 辞令交付	
	4(土) よるべ会保護者会役員会	
	18(土) よるべ会保護者会総会(中止・書面)	
	21(火) みのり会総会(中止・書面)	
5	16(土) みんなのつどい(中止)	
	29(金) ハイキング(梅香園)(中止)	
6	26(金) よるべ沼代日帰り旅行(サファリパーク)	3(水) よるべ会監事監査
		11(木) よるべ会理事会
		11(木)～12(金) セブセンター研修大会(東京)[中止]
		26(金) よるべ会評議員会
7	1(水) 健康診断(よるべ沼代)	1(水)～2(木) 福祉協会施設長会(横浜)(中止)
	9(木) 健康診断(わらべ・コスタ)	11(土) 全体職員会議(わらべの杜)
	11(土) よるべ会保護者会・清掃(中止)	16(木)～17(金) セルフ総合研究(札幌)(中止)
	18(土) 梅香園納涼大会(中止)	
8	1(土) よるべ夏祭り(中止)	20(木)～21(金) グループホーム研修会(名古屋)(中止)
	13(木)～16(日) 夏休み	
	24(月)～25(火) わらべの杜一泊旅行(中止)	
	27(木) 歯科検診(わらべの杜)	
9	4(金) 梅香園旅行(中止)	26(土) 全体職員会議・研修会(わらべの杜)
	6(日) 健民祭(よるべ沼代・わらべの杜)(中止)	23(水)～24(木) 福祉協会全国(京都)(中止)
	11(金)～12(土) よるべ沼代一泊旅行(中止)	
	15(火) 健康診断(梅香園)	
	26(土) よるべ会保護者会(中止)	
10	18(日) よるべふれあい祭り(中止)	1(木)～2(金) セルフ関東(茨城)(中止)
	24(土) 秋の感謝祭(梅香園)	7(水)～8(木) 福祉協会関東(宇都宮)(中止)
		22(木) よるべ会理事会
		30(金) よるべ会評議員
11	6(金)～7(土) コスタ二宮一泊旅行(中止)	12(木)～13(金) 日中活動支援部会(秋田)(中止)
	13(金)～14(土) コスタ二宮一泊旅行(中止)	19(木)～20(金) 障害者施設支援部会(札幌)(中止)
	7(土) 予防接種(わらべの杜)	28(土) 全体職員会議(わらべの杜)
	13(金) 予防接種(よるべ沼代)	
	20(金) 予防接種(コスタ二宮)	
	20(金) よるべ沼代日帰り旅行(中止)	
	21(土) 予防接種(わらべの杜)	
12	5(土) 県西地区文化事業	1(火)～2(水) 児童発達支援部会(宇都宮)(中止)
	12(土) よるべ会保護者会・清掃(中止)	
	18(金) よるべ沼代クリスマス会	
	19(土) コスタ二宮クリスマス会	
	19(土) わらべの杜クリスマス会	
	28(土) よるべ沼代餅つき・わらべの杜忘年会	
	29(火)～1/3(日) 冬休み	
1	4(月) 仕事始め	
	7(金) どんど焼き(わらべの杜)	
	9(土) よるべ会新年会(中止)・各事業所にて開催	
	14(木) どんど焼き(よるべ沼代)	
2	13(土) よるべ会保護者会役員会	13(土) 全体職員会議(わらべの杜)
	21(日) 消防団合同訓練(よるべ沼代・わらべの杜)	
3	6(土) 内科検診(よるべ沼代)	11(木) よるべ会理事会
	21(日) わくわくのりのりコンサート(中止)	13(土) 全体職員会議(わらべの杜)
	25(木) わらべの杜送る会	19(金) よるべ会評議員会

## 【よるべ沼代】 令和2年度 事業報告書

### 〔1〕 運営目標

よるべ会の基本方針に基づき、質の高いサービス提供ができる様、計画的に目標設定を行い、様々なニーズに対応する。入所利用者の高齢化・重度化に対応するために、「施設入所支援」「生活介護」「短期入所」「日中一時」「計画相談」事業をさらに充実させ、それぞれの事業で必要な支援を展開します。

また、「コスタ二宮」「梅香園」「ぽけっと」「わらべの杜」や、共同生活援助事業等と常に連携を持ちながら、利用者一人一人の存在を尊重しつつ、自立に向かう意識を高める。その為の力を生み出す道筋づくりと、施設生活の質の向上に向けた環境づくりを積極的・計画的に実施します。

### 〔2〕 取り組みと状況報告

年齢や障害特性の多様化による課題に直面しています。病気や怪我による入退院や常時介助が必要な方が増えています。簡素化できる業務について検討を重ね、日課の変更、改善を実施。また、感染予防や健康状況の把握、個々の持病への対応、食事提供や栄養管理について、医務会議、栄養ケア会議等にて検討、職員間で情報共有をし、工夫しながら改善を行う。コロナ渦で通所や短期入所利用については制限を設けながら対応を行う。

### 〔3〕 次年度に向けて

感染対策、災害対応への取り組みの強化に向け、会議の場の設置、検討を行う。また、業務継続に向けた計画の見直しを進める。高齢者や行動障害のある方について、本人の状況に合った生活環境がどこまで提供できているのかを職員間で十分に検討し、本人にとってよりの良い環境に向けて他施設や介護保険制度への移行を含め、関係機関との連携、情報共有をはかりながら進める。

### 〔4〕 利用者状況

■ 年齢区分 最小年齢：19歳 最高齢：86歳 (令和3年3月31日 現在)									
	20歳未満	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳～	平均年齢	計
男	0	4	1	4	6	6	3	50	24
女	1	2	0	1	3	5	4	56.5	16
計	1	6	1	5	9	11	7	52.6	40

  

■ 障害支援区分 (令和3年3月31日 現在)									
	非該当	1	2	3	4	5	6	平均区分	計
男	0	0	0	0	3	12	10	5.3	24
女	0	0	0	0	4	6	6	5.1	16
計	0	0	0	0	7	18	16	5.2	40

■施設入所支援（現員40名） 開所日数及び利用者数・利用日数 (令和3年3月31日現在)

施設入所支援	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
開所日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
実人数	男	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288
延日数	男	720	744	720	744	744	720	744	720	744	723	627	713	8663
実人数	女	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	192
延べ日数	女	480	496	480	496	496	480	496	474	481	496	446	480	5801

■生活介護（現員42名） 開所日数及び利用者数・利用日数 (令和3年3月31日現在)

施設入所支援	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
開所日数		22	23	22	23	23	22	23	22	22	22	20	23	267
実人数	男	24	24	24	24	24	24	25	25	25	25	25	25	294
延日数	男	522	544	518	542	537	516	567	542	537	516	468	545	6354
実人数	女	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	192
延日数	女	352	368	352	368	368	352	368	345	338	352	316	368	4247

■令和2年度 新規入所者年齢

	20歳未満	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	計
男	0	1	0	0	0	1
女	0	0	0	0	0	0

■令和2年度 退所者状況

	グループホーム	自宅	介護施設	入院	その他	計
男	0	0	0	0	0	0
女	0	0	0	0	0	0

■工賃実績（前年対比）4月～3月までの一人当たりの月平均金額

	令和元年度実績	令和2年度実績	備考
生活介護（生産型）	¥2,498	¥2,871	養鶏班 11名

【収支】収入¥5,104,341／支出¥5,243,163（内工賃¥379,000）／利益 △¥138,822

【状況】羽数 831羽（内 オス 80羽） 産卵数 164,675個（月平均 13,723個）

〔5〕短期入所・日中一時事業

■短期利用者状況（定員4名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人数	5	2	2	2	1	2	6	9	7	0	0	0	36
延べ人数	7	2	2	2	1	3	13	21	16	0	0	0	67
延べ日数	25	62	37	51	31	9	40	51	43	0	0	0	349

■日中一時利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人数	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
延べ人数	2	0	0	0	0	5	4	0	0	0	0	0	0
延べ時間数	16	0	0	0	0	40	32	0	0	0	0	0	0

## 〔6〕相談支援

令和2年度よるべ相談室 支援対応実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
モニタリング	23	27	26	16	22	24	27	29	23	29	14	18	278
計 画 案	3	9	9	7	10	8	8	15	11	15	29	5	129
計 画	3	9	9	7	10	8	8	13	11	14	29	5	126
ケース会議	0	1	1	0	4	7	6	5	0	1	4	5	34
家庭訪問	1	2	0	1	0	4	1	2	0	0	0	0	11
個別面談	0	2	2	2	3	3	2	3	2	0	0	0	19
見学(体験)同行・通勤支援	0	3	1	0	1	1	2	0	2	0	0	0	10
	30	53	48	33	50	55	54	67	49	59	76	33	

## 〔7〕令和2年度まとめ※事業所の課題および実施状況 (評価 ○・△・×)

具体的活動	実施者	到達点	実施状況	評価
<b>【権利擁護の確立】</b> ・自己チェック表を活用し自己評価、振り返りを実施。結果を集計し課題の抽出、改善を図る。 ・KWネットの取組み	課長	各自で振り返り、権利擁護に対する意識の向上、改善が実感できた。	チェック表、内部研修を実施。権利擁護に対する意識は高まったが、個人差もあり、今後も職員全体で学ぶ場を継続したい。	△
<b>【人材育成】</b> ・支援力向上のため、内部研修の実施、外部研修への積極的な参加 ・4つのグループに分かれ、法人内外の事業所の見学を実施し現場の取組みにつなげる	課長 各主任	研修や見学から得たものから、新たな取組みを実施。積極的に活用する。	リモートを含めた外部研修棟へ積極的に参加したが、新たな取り組みの実施には至らなかった。他施設見学に関しては、コロナ渦で未実施となった	△
<b>【業務の検証と改善】</b> ・必要な業務と簡素化できる業務の見極めを行う。 ・各日中活動班、寮で改善案を出し会議の場で活動の報告、状況の共有を進める。 ・職場での働きやすい環境づくり、環境美化を進める。	各主任	・毎月の会議で確認、検証を習慣化する ・職場の整理整頓の習慣化。 ・働きやすい環境づくり、環境美化への意識が高まった	毎月の会議で、現在の業務内容の確認と検証を実施。職員間で改善が必要な場面の抽出、課題の確認等を意識的に行う事もでき改善にもつながった。	○
<b>【地域社会との連携】</b> ・地域社会や関係機関との連携を図り、交流を深める。 ・地域行事への積極的な参加 ・協力を継続し、地域のボランティアさんとの交流を深める	各主任	地域との交流やボランティア活用の機会が増えた	コロナ渦で地域行事の開催が中止となり、交流等の機会をつくることができなかった。地域の関係機関との電話や連絡会議への参加等にて連携をはかった。	×

## 〔8〕防災

実施月	実施内容	対象	振り返り
6/25 (木)	【夜間訓練】避難・初期消火・通報訓練	夜勤職員 全利用者	地震等の自然災害を考慮し、時間帯に合わせ細かな対応の検討などが課題。
2/21 (日)	【地域消防団との総合訓練】避難・消火・通報訓練	出勤職員 全利用者	避難誘導を実施。コロナ渦で放水訓練を省略、透明シートを下げる等の感染予防をし、実施。

## 〔9〕 リスクマネジメント（事故報告）

種 類	件 数	内 容 等
転倒/転落	4	3F ベランダからの転落。階段から転落／廊下での転倒／椅子からの転倒
ケガ	3	複数箇所骨折（ベランダからの転落）／頭部裂傷（階段からの転落）／顔面裂傷（廊下での転倒）／骨折（他害）
服薬	3	居室テーブル下に落薬／飲ませ忘れ
利用者トラブル	4	他害／他者の物を無断で持ち去る、私物のやり取り等での口論
車両	2	マイクロバスのオーバーヒート、縁石に接触
服薬	3	居室テーブル下に落薬、服薬忘れ

### ■ <重大事故> ※県・市町へ報告

日付	種類	内容	対処	対応・対策
1月10日	転落	3F ベランダより転落。救急搬送。複数の骨折箇所。	救急搬送 入院	関係機関とカンファレンス実施、利用者同士の関係性を考慮し居室移動等の対応を検討。
1月10日	他害	他者に殴られ、右上腕骨頸部骨折	通院	他者の部屋への侵入防止の徹底。 職員の見守りと声掛け。
3月29日	転倒	階段を降りる際、足を滑らせ転倒。頭部裂傷。	通院	居室の変更。エレベーターの利用の習慣化。

## 〔10〕 苦情解決

■ 苦情件数 0件

# 令和2年度【よるべ沼代地域生活支援課】事業報告書

## 〔1〕運営目標

入居者それぞれのライフスタイルやライフステージに合わせた支援を展開し、より豊かな生活を実現するために各職員の支援スキルの向上を目指す。入居者の高齢化に対応した支援の在り方を検討し、ハード・ソフト両面からの改善を行う。また若い世代の利用者の入居が今後も予想されるので、それぞれの世代の要望・ニーズを整理し、数年先のホーム運営を見据えた体制を整えていく。

提供するサービスの本質を整理し、質の良いサービスを提供できるよう努力していく。また、学びを怠らず、常に最新の情報を収集し支援に活かしていく。

## 〔2〕取り組みと状況報告

今年度は利用者や職員に対するコロナウイルス感染の影響への備えを最優先に行いつつ、個々の利用者の支援の実施や8か所のGHの運営をバックアップする地域生活支援課の業務の検証と改善を念頭に年間を通じて取り組みを行った。

9月以降、利用者や勤務職員に発熱など感染の疑いが生じた場合の備えを急ピッチで進めた。発熱などが生じた際には、その都度対象の方を隔離する、対象のGHをロックダウンとする、とするフローで対処をしてきた。実際にロックダウン回数は5回ほどあったが、いずれも陰性と分かり、事なきを得た結果で推移している。

グループホームの利用者の高齢化は進んでおり、一部介護サービスとの併用をしながら生活の支援を行った。さらに、対象となる利用者2名について、介護保険の申請、介護認定の実施を行い、次年度からの介護サービスの併用に向けた準備を進めた。

一方、若年世代の利用者に対して、障害基礎年金の申請を外部の社労士へ協力を仰ぎながら順次進めて、7名が申請済み、うち6名が受給開始となった。限られた人数で複数のGHをフォローしていくため、業務に対する役割分担を明確にすること、業務の見える化を進めて、極力オンタイムで処理を進めていけるように各自が工夫をして、課としての効率性を上げる努力を重ねた。

権利擁護・虐待防止を念頭に毎月の職員、世話人による自身の業務への振り返りを重ねて、意識改善、向上を目指した。残念ながらコロナウイルスの影響により、これらに対する研修の実施ができなかったことや、数回利用者からの苦情も出てしまった。次に進むためのきっかけとして受け止めて、課として内容を共有して改善への取り組みに繋げた。

## 〔3〕次年度に向けて

幅広い世代がいらっしゃる、入居者一人ひとりのニーズをきちんと捉えた個別

支援計画を立案する。その支援を提供していくために、職員一人ひとりが正しい支援スキルを備え発揮できるように、学びを怠らず教育の機会を持つ工夫をしていく。正確性や効率性を念頭に置いた業務の在り方を意識して、改善への視点を忘れずに、スムーズな業務運営が出来る集団を目指す。

#### 〔4〕利用者状況

【利用者状況】														
■年齢区分（令和3年3月31日現在）														
	20歳未満	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳以上	平均年齢	計					
男	0	10	1	7	5	5	3	44	31					
女	1	1	0	1	2	3	5	59	13					
計	1	11	1	8	7	8	8	51	44					
最小年齢：19才 ・ 最高齢 82才														
■障害支援区分（令和3年3月31日現在）														
	非該当	1	2	3	4	5	6	平均区分	計					
男	1	1	15	8	5	1	0	2.6	31					
女	0	0	3	6	4	0	0	3.1	13					
計	1	1	18	14	9	1	0	2.9	44					
■在所年数（令和3年3月31日現在）														
	6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年～20年未満	20年以上	計					
男		2	8	2	7	1	4	7	31					
女	0	0	3	0	2	2	2	4	13					
計	0	2	11	2	9	3	6	11	44					
■開所日数および利用者数・利用日数（令和3年3月31日現在）														
【かめりあホーム】		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
実人数	男	19	19	20	20	20	20	20	20	20	20	20	21	239
延べ利用日数		553	578	600	620	597	596	615	566	608	599	559	623	7114
実人数	女	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
延べ利用日数		343	368	360	372	367	360	372	356	363	365	336	354	4316
【ボラリスホーム】		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
実人数	男	11	11	11	11	11	11	11	11	11	12	12	12	135
延べ利用日数		330	341	330	341	336	329	341	328	335	330	311	349	4001
実人数	女	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
延べ利用日数		30	31	30	31	31	31	31	31	30	31	28	31	366
■令和2年度 新規入所者年齢（令和3年3月31日）														
	10～20歳	21～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	計								
男	2	0	0	0	0	2								
女	0	0	0	0	0	0								
■令和2年度 退所者状況（令和3年3月31日）														
	自宅			介護施設			他							
男	0			0			0							
女	0			0			0							

〔5〕 短期入所・日中一時事業 なし

〔6〕 相談支援 なし

〔7〕 令和2年度まとめ ※各事業所の課題および実施状況（評価 ○・△・×）

項目	具体的活動	実施者	到達点	実施状況	評価
権利擁護の確立	・学習の場、研修への積極的な参加等の機会を作る。	全職員	日常の記録に権利擁護に関する記述が増えた	7月から継続して自己チェックシートによる月の振り返りを職員、世話人で実施してきた。回答の様子から、各々が冷静に振り返りをしている様子もうかがえた。到達点の1つであった意識の向上にはつながったと考えている。また、苦情として挙げた内容も利用者の権利擁護に関することであった。当該の世話人とはシートを通じた継続した面談を実施して、その改善につなげることができた。	○
	・自己チェック表を活用。自己評価、課題の抽出、改善を図る。	全世話人	（意識の向上、改善が実感できた。）		
職員のスキルアップ	権利擁護の基礎研修、学習を通して必要な知識やスキル、権利擁護に対する意識を高める。	全職員	意識の向上、改善が実感できた。	研修について、企画までの状況である。コロナ禍の影響により、意図したとおりの年間活動に取り組むことができず、代替の取り組みも着手できなかった。	△
業務の検証と改善	業務状況を確認。必要な業務と簡素化できる業務の見極めを行う。・働きやすい環境、職場づくりを進める	全職員	エピナール、かめりあ各事業所ごとに、取り組みを実施、評価する。	業務において、大きなウェイトを占める食事提供に関して、後期に冷凍食品食材の導入を試行した。利用者の声もアンケートを取り実態を知る試みも行った。  前期に行った取り組みとともに業務の簡素化というテーマに即した結果を出せたと判断している。	○
地域社会との連携	事業所の得意なこと(人、物、場所等)を活用し地域との関わりを深める	全職員	地域との交流の機会が増えた	コロナ禍の影響を受けて実施できず。	

〔8〕 防災

実施月	実施内容	対象	振り返り
5月、7月、9月、11月、1月、3月	自主点検	職員	各GHの検査対象（消火器等）を基準と照らして検査した。年間2回、業者委託による検査を行った。
10月	【避難訓練】 大規模災害訓練（避難・通報・誘導）	利用者	各GHが大規模災害にあった時に、世話人の誘導の元、速やかに避難場所までの移動ができた。
3月	緊急事態宣言のため、実施できず。		
まとめ	年間を通して予定した防災訓練や点検等を実施した。今後も維持していきたい。		

〔9〕 リスクマネジメント（事故報告）

種類	回数	内容等
転倒/転落	0	自転車からの転落
服薬	1	別の利用者の精神科薬を処方されていないもう一人の利用者に飲ませてしまった。
ケガ	0	
利用者トラブル	0	
車両	0	
その他	0	

■ <重大事故> ※県・市町へ報告

■<重大事故>（県・市町へ報告件数）				
日付	種類	内容	対処	対応・対策
2020/11/28	交通事故	通所先からの帰途の際、乗用車と衝突の事故に遭い、その後救急搬送。大きな外傷はなく頭部に裂傷。一晩、入院し、翌日退院した。	病院との調整。	通所先と調整し、送迎車を以後手配していただいた。

〔10〕 苦情解決

苦情件数 1件

日付	内容	対応・対策
2020/10/25	GH勤務の世話人の勤務態度が高圧的に感じる。支援を頼みづらい。改善をして欲しい。	当該の世話人へ数回に分けて教育面談を行った。面談開始後、利用者から態度に変化を覚えたとの意見を受けたので解決とした。

## 【コスタ・二宮】 令和2年度 事業報告書

### 〔1〕 運営目標

#### ① 【就労継続B型＝食品部門】

- ・食品作業を主体とし、商品がすべてオリジナルである為の強みを生かし、利用者の適性活かし作業提供していきます。高工賃確保のために収入増を目指して、新規の開拓(委託店舗・給食関係)を行っていきます。

#### ② 【生活介護＝S P企画】

- ・豊かな社会生活を過ごすために生産活動・学習活動・創作活動等のプログラムを個々のニーズに基づき提供していきます。「はたらきたい」という方のために、安定した作業の確保を行っていきます。

#### ③ 【その他】

- ・充実した余暇支援の提供をしていきます。

### 〔2〕 取り組みと状況報告

- ① 製パン班・製麺ともに、“コロナウイルスの影響”でバザー等の即売関係の収入は減少しましたが、新規取引先が増えたこと及びJ A等の委託店舗の販売が堅著で大きな減収にはなりませんでした。利用者作業の幅を広げるための、製パン A 班・製パン B 班・製麺の相互利用は今年度も継続して行ない利用者の新たな一面の発掘になりました。
- ② S P企画では、“コロナウイルスの影響”で、6月までは外向けの日中活動プログラムが実施できず利用者さんに不自由な思いをさせましたが、その後は同じ目的をもった小グループ編成で活動の充実を図っていきました。生産活動では受注作業が主なので“コロナウイルスの影響”心配されましたが、収入に関しては前年度とほぼ同様となりました。
- ③ 余暇支援としましては、年間計画で予定していた土曜日のレクが4月・5月・8月・9月と“コロナウイルスの影響”で中止になってしまいました。10月からの「ミニふれあい祭り」「クリスマス会」は、小グループで”3密対策”に万全を期し施設内で実施しました。

### 〔3〕 次年度に向けて

- ① ウイルス対策を継続して行い、事業活動が安定して行えるようにしていきます。その為のウイルス対策の情報収集、コロナウイルス対策予防がインフルエンザ予防にもつながりますので、日々の予防活動を丁寧に実施していきます。
- ② 利用者の楽しみである余暇支援を、“ウイルス感染症対策”を施しながらなるべく多くの機会を実施できるように努めていきます。

## 〔4〕利用者状況

【利用者状況】									
■年齢区分（令和3年3月31日現在）									
	20歳未満	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳以上	平均年齢	計
男(B型)		2	3	4		3			12
女(B型)		2	2	3	1	3	1		12
男(生介)	1	1	4	4		2	3		15
女(生介)			1	3	1	1	3		9
最小年齢：19才 ・ 最高齢 84才									
■障害支援区分（令和3年3月31日現在）									
	非該当	1	2	3	4	5	6	平均区分	計
男(B型)	2		4	4	2			2,8	12
女(B型)	3		2	5	1	1		3,1	12
男(生介)	1			4	7	3		3,9	15
女(生介)			1	3	2	2		3,2	9
■在所年数（令和3年3月31日現在）									
	6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年～20年未満	20年以上	
男(B型)			1	1	2	3	1	4	
女(B型)			4	0	5	2	1		
男(生介)		3	2	4		1	4	1	
女(生介)		3	1	1	1	1		2	
■開所日数および利用者数・利用日数（令和3年3月31日現在）									
【生活介護（生産型）】		4月	5月	6月	7月	8月	9月		
開所日数		22	22	22	23	21	21		
実人数	男	15	15	15	15	15	15		
延べ利用日数		267	265	326	329	253	289		
実人数	女	8	8	8	8	9	9		
延べ利用日数		107	133	156	133	118	123		
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
開所日数		21	21	20	21	21	20	255	
実人数	男	15	15	15	15	15	15	◆	
延べ利用日数		326	284	304	266	261	309	3,479	
実人数	女	9	9	9	9	9	9	◆	
延べ利用日数		128	132	128	128	119	141	1,546	
【就労継続支援B型】		4月	5月	6月	7月	8月	9月		
開所日数		22	22	22	23	21	21		
実人数	男	12	12	12	12	12	12		
延べ利用日数		235	214	263	261	221	245		
実人数	女	12	12	12	12	12	12		
延べ利用日数		240	210	247	246	203	227		
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
開所日数		21	21	20	21	21	20	255	
実人数	男	12	12	12	12	12	12	◆	
延べ利用日数		270	257	243	207	223	268	2,907	
実人数	女	12	12	12	12	12	12	◆	
延べ利用日数		254	240	235	216	214	240	2,772	
■工賃実績（前年対比） 4月～令和3年3月までの一人当たりの月平均									
	令和元年度実績	令和2年度実績	備 考						
生活介護（生産型）	目標(5,500) 5,754	目標(5,500) 6,723	・共同受注(駐車場・リンガーハット除草等)・日本リユース						
就労継続支援B型	目標(21,000) 22,045	目標(21,000) 20,642	・製麺、製パン作業 ・施設外支援(柳川乳業)						

## 〔5〕 相談支援

新規相談 0 件、モニタリング 21 件

## 〔6〕 令和2年度まとめ

項目	具体的活動	実施者	到達点	実施状況	評価
権利擁護	権利擁護委員会を中心とした、事業所内研修の実施。職員に対し、定期的に入権侵害に係る自己チェックや虐待防止のチェックの実施。	課長 主任	各企画が遂行され、外部からの指摘も受けられない事業が遂行できた。	年間計画通り研修や自己チェック等の企画を実施しました。虐待防止マネージャー研修を受講しています。伝達研修や自己チェック表を活用した面談など、職員への研修や教育の仕組みも構築できました。反省点としては、利用者へのアプローチが不足していたので強化できればと感じました。次年度に繋がります。	○
人材育成	専門分野（職 品 関 連、タスカルカード、創作等）に特化した外部研修への参加。人事考課制度を有効活用し、強化する。	施設長 各職員	専門分野の習熟度が高まり、現場での実践に活用される	アンケート・自己チェック・面談での効果が確認されました。専門分野の各自習熟度については緩やかな成長です。現場での実践についてはSST・HACCP・等の知識を活用していますが、活用のレベルとしては弱かったです。各自の専門分野に対する課題と到達点を具体的にすることで有効性が得られます。	△
業務の検証と改善	業務改善アンケート等を実施し、効率化に向け検証・改善を実施する。職場環境の点検、改善。	施設長 課長	業務の効率化により、利用者支援が更に強化される体制となった。	月次の会議と10月のアンケート調査など、業務改善の抽出の機会は定型化したので、仕組みとしては確立されました。業務改善や効率化は小さな改善点の積み重ねを習慣化することで、効果が得られると感じました。次年度も職員全体で、改善点について定期的に考える機会を継続したいと思います。	○
地域社会と連携	東大跡パラスポーツの会への参加。「ふれあい祭り」「二宮商工まつり」「各種バザー、イベント」等の、地域行事へ積極参加。	課長 主任	多くの利用者が地域行事等に参加できた。	コロナウィルスの感染拡大と緊急事態宣言の影響で、地域行事に積極的な参加できませんでした。パラスポーツについては部分的な参加や情報共有できました。施設での開所日や行事は、感染に十分配慮しながら規模を縮小して実施しました。施設での開所日は利用者にとっての楽しみの場面として有効でした。次年度も感染症対策を強化し、地域社会との連携を模索したいと思います。	△

## 〔7〕 防災

実施月	実施内容	対象	振り返り
令和3年3月	食品部門、避難・通報訓練	利用者・職員	避難場所での整列方法の検討
令和2年11月	地震想定での避難訓練	SP企画利用者・職員	今後も継続しての訓練実施

## 〔8〕 リスクマネジメント（事故報告）

種類	回数	内容等
転倒／転落	0	
ケガ	0	* 事故報告までの、案件は無し
利用者トラブル	0	
車両	0	* 事故報告までの、案件は無し
物品破損	0	
その他	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ S P企画、コスタ二宮本館共に漏水対応を業者に調査依頼。対策の検討中。</li> <li>・ 近隣住民からの通報により、S P企画活動に関して「二宮町障害福祉サービス課」職員による聞き取り調査の実施。</li> </ul>

《重大事故》 ※県・市町へ報告・・・特になし

## 〔9〕 苦情解決

苦情件数 0件

## 【梅香園】 令和2年度 事業報告書

### 〔1〕 運営目標

- 1 利用者さんに安心して安全なサービス提供をします。  
(利用者さんの最善の支援を検討します。)
- 2 利用者さんの目標達成に向けた取り組みを推進します。
- 3 人材育成の方策を検討するとともに、職員のスキルアップを図ります。
- 4 地域活動・行事に参加・協力するなど啓蒙活動を推進し、地域・関係機関との関りを深めていきます。

### 〔2〕 取り組みと状況報告

- 1 リスクマネジメント委員会は、7月以降毎月実施しており、提出された事案について協議し、注意点及び当月の目標を設定して全職員に発信することが出来ています。今年度は、梅香園及びグループホームから合計で168件のヒヤリハットが提出されており「ひやりはっと」が利用者の安心して安全なサービスにつながってきています。

生活・行事委員会は、コロナ禍のため誕生会を2グループに分けて開催しており、内容も開催できない行事や季節感を盛り込むなど工夫して実施することが出来ました。

給食委員会では、引き続き「選択メニュー」と「お楽しみメニュー」の充実を図るとともに、終礼において検食の内容を確認するなどより良い給食の提供が出来るよう取り組んでいます。

- 2 利用者と担当者が家族の協力を得ながら、教室・個別の時間や活動の中で練習に取り組み、その成果を概ね全員が誕生会等で発表することが出来ています。
- 3 コロナ禍の中ではありましたが、9月に「口腔ケアに関する研修会」、11月に「地震・水害対策」、1月に「障害者の権利擁護」の職員研修会を開催するとともに、グループホーム職員対象の外部研修会に参加することが出来ました。
- 4 地域活動・行事等については、コロナ禍のため地域及び当園においても開催されていないため、深めることが出来ていない状況が続いています。

### 〔3〕 次年度に向けて

- 1 リスクマネジメント委員会は、引き続き事故防止の観点から「ひやりはっと」を積極的に提出できるよう「気づき」を大切に捉えて推進していきます。

生活・行事委員会は、業務改善委員会の中で協議していき、給食委員会は、誕生会や給食の場面で利用者が楽しんでもらえる内容となるよう工夫していきます。

2 利用者さんの新たな目標達成に向けた取組みを個別の時間を有効に使いながら進めていき、発表できる場を設定していきます。

3 職員研修会は、コロナ禍ではありますが、可能な限り実施できるように計画していきます。また、外部研修にもテレワークを活用して参画していきます。

人材育成の方策については、法人の部会の中で協議していきます。

4 コロナ禍のため、行事等は開催予定が立たない状況にありますが、その中で園の広報誌である「はーとふる通信」を広報委員会を設置して発行していきます。

#### 〔4〕利用者状況

##### ■年齢区分（令和3年3月31日現在）

	20歳未満	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳～	平均年齢	計
男	1	2	4	11	4	4	2	46.3	28
女		4	5	6	5	2	1	43.5	23
計	1	6	9	17	9	6	3	45.0	51

最年少：19歳 ・ 最高齢：86歳

##### ■障害支援区分（令和3年3月31日現在）

	非該当	1	2	3	4	5	6	平均区分	計
男	4	2	2	1	10	6	3	3.5	28
女	1		2	6	6	4	4	3.9	23
計	5	2	4	7	16	10	7	3.67	51

##### ■在所年数（令和3年3月31日現在）

	6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年～20年未満	20年以上
男		2	3		8	4	11	
女			2	4	5	4	8	
計		2	5	4	13	8	19	

##### ■開所日数及び利用者数・利用日数（令和3年3月31日現在）

【生活介護（生産型）】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数	21	21	22	23	20	21	23	21	22	21	20	23	258
実人数	男												
延利用日数													
実人数	女												
延利用日数													
延利用日数	173	147	227	224	197	217	236	215	220	160	183	237	2,436

【就労継続 B 型】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数	21	21	22	23	20	21	23	21	22	21	20	23	258
実人数	男	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180
延利用日数		268	225	269	300	266	274	301	273	283	230	218	286
実人数	女	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	120
延利用日数		144	127	202	184	161	169	210	190	192	156	150	203

■工賃実績（前年対比）

	令和元年度実績	令和2年度実績	備 考
生活介護 (生産型)	目標 3,000 円 2,799 円	目標 3,000 円 3,577 円	アルミ缶つぶし・自主製品作成 北原清掃・高架下除草
就労継続支援 B 型	目標 20,000 円 18,461 円	目標 20,000 円 1,8470 円	施設外就労:ひかりの里・足柄療護園 清掃・ラリース/印刷・受注作業等

〔5〕日中一時事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
開所日数	21	21	22	22	20	21	23	21	22	21	20	23	257	
実人数	男	3	1	3	5	3	4	4	5	4	3	1	3	39
延利用日数		13	2	27	47	39	42	46	42	41	9	2	16	326
実人数	女				1				1				2	
延利用日数					1					1				2

〔6〕令和2年度まとめ ※各事業所の課題および実施状況

項目	具体的活動	実施者	到達点	実施状況	評価
権利擁護	<b>権利擁護の確立</b> 方法:支援場面での職員の役割と対応の仕方からニーズの高まりに伝える。	全員	その人にとって最善の支援とは何かを改めて検証し、必要な課題に結び付ける。	11月に昨年度目標に立てた絵馬の発表をしました。目標を達成するための家庭の中で様々な工夫や利用者さんとの時間の持ち方や日常のかかわり方など今後につながるような活動を職員が行えました。	○
人材育成	<b>職員のスキルアップ</b> 方法:年4回の研修会と年1回の施設見学会の開催 1) 楽しく研修	全員	職員の専門性が昨年以上に高まり、日々の支援に活用できる。	9月は歯科医による「口腔ケア」、11月には市防災課職員による「地震・水害対策」、1月「障害者の権利擁護」について実施しました。それぞれが日々の支援に役立つ内容で職員の意識付けも出来ました。	△

	2) 専門性を高めるための検討会				
	<u>人材の育成のための方策を検討する</u> 方法) 新人教育からOJTまでの流れの確立と見て直ぐ解りやすいマニュアルの作成	全員	人材を育て、長く働いてもらえるような教育ができるプログラムの策定	リスクマネジメント委員会で発案された「手順書を作成しよう」が新人職員もそうでない職員にも自身がやるのが分かりやすくなり教えやすくなり、具体的活動にあげたマニュアル作りにつながりました。次年度も継続して手順書づくりを行っていきます。	△
業務の検証と改善	<u>働きやすい職場環境の整備</u> 方法: 日課等々の見直しと実施	全員	確実に休憩時間が取れ、計画的年休も取得ができる	ホームの土日の勤務の休憩確保のために日勤者を配置出来るよう調整しました。公休年休の計画的な取得が出来ました。体制整備が出来たので、チームワークを高める職場づくりを協議します。	○
	<u>業務の検証と改善</u> 方法: 4つの委員会の設置 (リスク・給食・生活(行事)・防災) 業務の検証と改善の提案を行う	全員	業務の改善	リスクマネジメント委員会で日々のヒヤリはっとからさらなる対策を考え、当月の目標を立てることを行いました。その中でミスを防ぐ手順書の作成という対策を講じることが出来ました。防災では改めて備えが必要なものを見直してそろえることが出来ました。	△
	<u>安心で安全なサービスを提供する</u> 方法: リスクマネジメント委員会や事故報告から改善策の確認と検証	全員	安全で安心な施設運営	軽微なヒヤリが起こる要因について委員会で再度考える時間を設けました。また一度改善策を出して実施したことが時間とともに風化して同じヒヤリが上がった事例から「手順書を作成しよう」という目標につながりました。	○

〔7〕 相談支援…未実施

〔8〕 防災………防災委員会を8月より隔月に開催し、防災備品等を整備しています。9/17に火災避難訓練及び通報訓練を実施した。

〔9〕 リスクマネジメント（事故報告）

種類	回数	内容等
転倒・転落	18	把握が必要な利用者が一人で移動してしまう。雨水の侵入による
服薬	30	セットミス・チェックミス等々
けが	3	ガラス製の作業道具にあたって割ってしまう。
利用者トラブル	7	女性利用者がまだ使用中に男性利用者がトイレにて排泄してしまう
車輛（送迎含む）	3	違う送迎コースに乗車、免許不携帯、鍵を持たずに運転
物品破損	7	トイレのドアのガラスにぶつかり破損
その他	100	弁当の発注ミス、園外へ無断で出てしまう、通院日の連絡ミス等

《重大事故》 ※県・市町へ報告

日付	種類	内容	対処	対応・対策
8月4日	ケガ	頭部裂傷 (裂傷6mm)	直ぐに止血し、 病院に搬送しま した。	事故報告書を作成し対応策を 協議不安定時には複数職員で 対応、相互の関係性の構築を 図ります。

〔10〕 苦情解決・・・ 苦情件数 2件

## 【あずさの家】 令和2年度 事業報告書

### 〔1〕 運営目標

- 1 利用者さんに安心して安全なサービス提供をします。  
(利用者さんの最善の支援を検討します。)
- 2 利用者さんの目標達成に向けた取り組みを推進します。
- 3 人材育成の方策を検討するとともに、職員のスキルアップを図ります。
- 4 地域活動・行事に参加・協力するなど啓蒙活動を推進し、地域・関係機関との関りを深めていきます。

### 〔2〕 取り組みと状況報告

- 1 園で開催されるリスクマネジメント委員会に参加し、安心して安全なサービスが提供できるように取組んでいます。ヒヤリハットをマイナスではなく「気づき」として捉えて提出できるように、気づきノート等を作成して意識付けを図っています。

また、3ホーム会議や各ホーム会議でサービス提供について協議しています。

9月には、あずさとポプラで入居者の安全面を考慮して居室変更しました。

防災委員会も、園と一緒に協議しており、GHの防災に関する研修会にも参加している。3月に火災を想定した避難訓練を実施しました。

- 2 園の担当者と協力しながら、生活の中で個別の時間をつくり、練習に取り組むようにしていますが、まだまだ十分とは言えない状況にあります。
- 3 コロナ禍の中、園と一緒に9月に「口腔ケアに関する研修会」、11月に「地震・水害対策」、1月に「障害者の権利擁護」の職員研修会を開催するとともに、グループホーム職員対象の外部研修会に参加することが出来ました。
- 4 地域活動・行事等については、コロナ禍のため地域行事等は開催されていないため深めることが出来ていないが、大家さんの田んぼ、みかん畑や畑作業を手伝うことが出来ました。

### 〔3〕 次年度に向けて

- 1 リスクマネジメント委員会では、事故防止の観点から「ひやりはっと」を積極的に提出できるよう、「気づきノート」等の取り組みを引き続き推進して、職員の意識改革を図っていきます。

防災委員会では、定期的に避難訓練等を実施するとともに、防災グッズの整備を進めていきます。

2 利用者さんの新たな目標達成に向けた取組みを、園と協力して個別の時間を有効に使いながら取り組んでいきます。

3 職員研修会は、コロナ禍ではありますが、園と協力して可能な限り実施できるように計画していきます。また、外部研修にもテレワークを活用して参画していきます。

人材育成の方策については、園とは違う視点で協議に参加していきます。

4 コロナ禍のため、行事等は開催予定が立たない状況にありますが、その中で園の広報誌である「はーとふる通信」の発信に協力していきます。

#### 〔4〕利用者状況

##### ■年齢区分（令和3年3月31日現在）

	20歳未満	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳～	平均年齢	計
男				4	1	4	2	58.1歳	11
女			2		4		1	50.8歳	7
計			2	4	5	4	3	55.3歳	18

最年少：30歳 ・ 最高齢86歳

##### ■障害支援区分（令和3年3月31日現在）

	非該当	1	2	3	4	5	6	平均区分	計
男			4	0	4	3		3.54	11
女			1	3	0	2	1	3.86	7
計			5	3	4	5	1	3.70	18

##### ■在所年数（令和3年3月31日現在）

	6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年～20年未満	20年以上
男		1	5	1	4			
女			1	1	5			
計		1	6	2	9			

##### ■開所日数及び利用者数・利用日数（令和3年3月31日現在）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
実人数	男	10	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	131
延利用日数		279	276	283	277	288	275	292	278	288	292	275	297	3,400
実人数	女	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	84
延利用日数		207	209	205	208	208	202	211	206	211	215	196	211	2,489

〔5〕短期入所事業…ポプラの家のみ実施

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人数	3												3
延人数	5												5
延利用日数	16												16

※4月の緊急事態宣言以降受け入れを中止している。

〔6〕相談支援…未実施

〔7〕令和2年度まとめ ※各事業所の課題および実施状況

※梅香園の品質活動報告に準じる

〔8〕防災… 3月に火災を想定した避難訓練を実施しました。

※スプリンクラー設備設置について

小田原市からの調査によりポプラの家の入居者の重度化が進んでいるためスプリンクラー設備の設置をするよう助言があり、県障害サービス課に来年度の設置に向けた補助金の申請をしている。

〔9〕リスクマネジメント（事故報告）

※今年度リスクマネジメント委員会を設置し梅香園と一緒に実施しているため、梅香園のリスクマネジメントに記載している。

〔10〕苦情解決…苦情件数 1件

## 【わらべの杜】 令和2年度 事業報告書

### 〔1〕 運営目標

児童の安心・安全な生活の確保、本人・保護者に寄り添いながら丁寧な移行支援を実施。過齢児1名の移行先の調整等、中学生・高校生が半数以上を占めるようになり、より地域移行への支援が多くなっています。

移行後の定員の確保にも不安定さがあり、児童の生活の安定と入所ニーズとのマッチングの難しさもありますが、児童相談所との連絡調整をしっかりとこなっていくことで、受け入れについての丁寧な対応を心がけていきたいと考えています。

### 〔2〕 取り組みと状況報告

#### ○ 地域移行

施設入所支援を希望する高3生1名については1月に移行ができました。他の3名のうち1名は法人内GHへ、その他2名は自宅近くとなる施設への入所、もう1名は在宅に戻ることとなり、全員無事に地域移行ができました。

#### ○ 権利擁護

こども会議の実施を実施し、定期的なヒアリングを通し、児童の困り感を早期発見・対応をすることで、生活の質の向上に努めることができました。

また、SSTを通し将来必要となってくる気持ちの発信や、場面に応じた対応補法の習得等、一步ずつ着実に力をつけることができるよう向けてきました。

#### ○ 地域活動への参加

コロナ禍のため各行事等が中止となってしまったこともあり、地域との接点が途切れてしまったことが残念でしたが、地域の方から心配するお声をいただき、ご寄付等をいただけたことは感謝にたえません。

児童たちは外出自粛により大変な思いをしましたが、職員の頑張りもあり、屋内レク等、感染拡大防止に配慮しながら企画と開催を行ない、大きなストレスを抱えないように向け、職員との関わりを増やすことにより、安定した生活をくずすことなく落ち着いて日々過ごすことができました。

### 〔3〕 次年度に向けて

コロナ禍の収束に影響を受けてしまうところですが、“安心して暮らす”ことの大切さをあらためて考えていきます。

- 感染防止対策の強化：未知の感染症に対しても対応可能となるよう対策を検討
- 児童の楽しみ作り：室内外に関わらず、新しい楽しみ方の模索
- 職員の働きやすい環境作り：働きやすい労働環境への改善
- 職員研修の実施：他施設研修を実施し、支援スキルの向上を目指す
- 法人内事業所間での連携強化：成人施設へ移行した方のフォローアップに努めます

## 〔4〕利用者状況

■年齢区分（令和3年3月31日現在）								
	6歳未満	6～11歳	12～14歳	15～17歳	18～19歳	20歳～	平均年齢	計
男	0	5	9	13	1	0	13.8	28
女	0	3	1	7	0	0	14.1	11
措置	0	7	9	17	1	0	13.9	34
契約	0	1	1	3	0	0	13.8	5
最小年齢：6才 ・ 最高年齢 18才								
■在所年数（令和3年3月31日現在）								
	6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～2年未満	2年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年以上
男	1	0	6	2	3	16	0	0
女	1	0	3	1	2	4	0	0
■開所日数および利用者数・利用日数（令和3年3月31日現在）								
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	
開所日数		30	31	30	31	31	30	
実人数	男	29	29	29	29	29	29	
延べ利用日数		870	899	870	899	899	870	
実人数	女	11	11	11	11	11	11	
延べ利用日数		330	341	330	341	341	330	
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数		31	30	31	31	28	31	365
実人数	男	29	28	28	29	29	28	345
延べ利用日数		899	840	868	899	812	868	10493
実人数	女	11	11	11	11	11	9	130
延べ利用日数		341	330	341	341	308	279	3953
■療育手帳程度別在所者数（令和3年3月31日現在）								
	最重度(A1)	重度(A2)	中度(B1)	軽度(B2)				
						手帳無し		
男	3	3	4	18	0			
女	3	2	0	6	0			
■令和2年度新規入所児年齢（令和3年3月31日）								
	6歳未満	6～11歳	12～14歳	15～17歳	計			
男	0	1	1	1	3			
女	0	1	0	1	2			
措置	0	2	1	2	5			
契約	0	0	0	0	0			
■令和2年度退所児者の状況①（令和3年3月31日）								
	6歳未満	6～11歳	12～14歳	15～17歳	18歳以上	計		
男	0	0	0	0	2	2		
女	0	0	0	0	3	3		
措置	0	0	0	0	5	5		
契約	0	0	0	0	0	0		
■令和2年度退所児者の状況②（令和3年3月31日）								
	障害者支援施設	グループホーム	在宅	他				
男	1	1	0	0	0			
女	2	0	1	0	0			
措置	3	1	1	0	0			
契約	0	0	0	0	0			

## 〔5〕短期入所事業及び一時保護

■短期入所														
	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実人数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延べ人数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延べ利用日数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
■一時保護														
	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実人数		0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	5
延べ人数		0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	5
延べ利用日数		0	0	0	0	0	0	0	4	7	25	0	5	41

〔6〕令和2年度まとめ

項目	具体的活動	実施者	到達点	(評価○・△・×)	
				実施状況	評価
権利擁護の確立①	意思決定支援を意識した輝ホームの運営と子ども会議の実施(1寮)	1寮職員	毎月子ども会議を開催し、子ども達が意思決定をすることができた	グループの役割分担や食席変更、TV録画の番組検討を協議。夏休み前にの子ども会議で決定した靴洗いの作業を本格的に実施。また、ゲーム時間のありかたについて協議。その他、コロナの感染拡大が続いており衛生面について確認。	○
権利擁護の確立②	子ども会議を隔月の開催として、開催しない月は少人数グループによるSSTの時間にあて児童等の意見発信の場を作ると共に人間関係の向上を図る(2寮)	2寮職員	全児童からの発信力向上となり、良好な人間関係の構築となった	小集団でのSSTを実施。グループ毎に必要なコミュニケーションを中心に行ってきた。その中では自身の体験を発表する事や意見を述べる事が出来たりと通常のことども会議よりも活発な意見交換ができたと感じている。子ども会議においても要望やルールの改正などの意見が出されるようになり発信力が向上している。人間関係については継続課題。	△
人材確保・育成	他施設研修を実施。新しい研修を取り入れ、直接支援業務にあたる職員への発想の広がりやスキルアップを目指す。	全職員	全職員が研修に参加し、スキルアップにつながった	結局年間通し研修の実施はできず。緊急事態宣言発令となったこともあり、今年度の実施は厳しくなってしまった。	×
業務の改善と検証	安全面に配慮した支援及び環境設定を行う(1寮)	1寮職員	生活の質を向上しつつ、大きなケガや事故の発生がなかった	居室のガラス破損や、鍵にゴミを詰まらせ破損する事案発生。いずれもケガや事故には至らず。水回りの設備をいじっている児童がいたため、今後カバーを設置するなどの対応を検討。その他、①リビングに防水使用のマットを設置。各児童が個々にマット配置をアレンジして使用。②現在止水している洗面所の使用について検討。	△
業務の改善と検証	よりよい職場づくりを目指し、職員間の細かな情報の共有を行い、新規の業務に取り組む。その結果、各職員間の効率的な業務分担を行い、定時での退勤を心掛けることで、職員の心身の安定を図り、良い支援につなげていく(3寮)	3寮職員	職員の気持ちに余裕ができることにより、児童一人一人への丁寧な支援に繋がることができた	休校や施設内での行動制限など、今まで以上に職員間の情報共有を丁寧に行う必要を感じた。高等部の進路決定では、共通の認識を持つことで、どの職員でも関係機関の対応が出来るように努めてきた。情報共有や業務の分散化を図ってきた結果、未経験の業務についての知識を得る事が出来た一方で、職員の定時退勤は時間によっては厳しく、気持ちの余裕を感じるまでには一層の工夫が必要だと考えている。	△
地域社会との連携	積極的に地域行事等に参加し交流を図る。地域清掃を行い、地域の美化清掃に取り組む。	全職員	地域行事、地域清掃もを行い、社会貢献ができた	コロナ禍のため地域行事がほぼ中止となり、サッカー大会、ペタンク大会等の数少ない開催された行事に参加することができた。地域での美化活動は実できず。	×

## 〔7〕 防災

実施月	実施内容	対象	振り返り
4・7・9・10・11・ 12・1月・3月	避難・通報・消火	全利用者	あまり変化のない避難訓練の実施だったため、次年度は風水害を想定した避難訓練等も工夫して実施していきたい。22分団との合同訓練は中止。
6・2月	【夜間】避難・通報		
2月	22分団合同訓練		

## 〔8〕 リスクマネジメント（事故報告）

種類	回数	内容等
転倒／転落		
服薬	1	服薬の飲ませ忘れのため、時間差で服薬し関係機関への連絡
ケガ	1	他児へのかみつき行為とみられる傷。通院するほどではなかったため一般処置と児童相談所への連絡を行う
利用者トラブル		
車両		
物品破損	1	サッカーボールによるガラス破損
その他	0	

### 《重大事故》 ※県・市町へ報告

日付	種類	内容	対処	対応・対策
4/29	ケガ	他児へのかみつき行為	分離し様子観察	見守り強化と（噛みつき行為をする児童）不穏な様子がみられる場合は早めに分離対応
7/17	服薬	誤薬	夜間のため翌日に主治医への連絡と関係機関への連絡および保護者への謝罪	主治医の指示のもと、バイタルチェックを行いながら様子観察。その後著変なし。
10/12	服薬	誤薬	主治医への連絡と関係機関への連絡および保護者への謝罪	主治医からの指示のもと、様子観察。大事をとり、一日登校を控える。その後とくに著変なし。

## 〔9〕 苦情解決

件数1件：コロナ禍で近隣のグラウンド使用に関するご意見があり使用を控えました。

## 【どーむ (童夢)】 令和2年度 事業報告書

### 〔1〕 運営目標

本人、保護者の思いに寄り添い、思いの共有と共感、達成感の積み重ねをしていくことで、将来に向けた基本的な生活習慣、対人コミュニケーション、言語等、様々な成長を支援していくことを目指します。

### 〔2〕 取り組みと状況報告

令和2年度当初は、コロナウイルスの影響から5月末まで家庭の協力を呼びかけ、ご自宅での過ごしを中心となりました。緊急時や、お子さんの対応が難しい時には通所対応も準備をしていたところでしたが、各ご家庭のご協力もあり感染もなく2ヶ月が終わっています。しかし、その後も感染拡大を心配されるご家庭も多く、当園としてできる限りの感染拡大防止に努め、無事に1年を終了することができました。

療育でのプログラム内容も年を追うごとに充実感を増し、“療育”とは何か？をじっくりと考えられた年にもなりました。

また、そのような環境の中で、年長さんの卒園を祝う「送る会」の実施もどうにか開催することができ、これもご家族の皆さまのご協力あってのものと感じ、この場をお借りして感謝申し上げます。

### 〔3〕 次年度に向けて

昨年度と同様、事業運営の安定にはまだ課題が残っており、年度替わりの利用児の調整等は難しさがあります。小規模ながらも地域で大切な事業ということを認識し、引き続きニーズの把握に努め、事業所として地域貢献できる内容に改善していきます。

次年度には、昨年度あまり実施できなかったICTを活用した人材育成・研修にも力を入れていく予定です。4月から報酬改定が実施されることを受けて、職員としての資質をより高度な支援を求められています。人材確保（保育士・児童指導員）についても難しい状況ではありますが、引き続き前進していけるよう取り組んでまいります。

研修では、支援の内容ばかりでなく、災害時や感染症への対応といった備えておくべき課題と向き合うようにしていきます。

また、3年目となることもあり、将来に向けた事業運営のあり方も模索し、年間通して検討を継続的に行っていきます。

〔4〕利用者状況

■年齢区分（令和3年3月31日現在）								
	3歳未満	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児以上	平均年齢	計	
男	0	0	7	8	8	5.0	23	
女	0	0	4	0	1	4.4	5	
最年少：4.9才								
■利用期間（令和3年3月31日現在）								
	1ヶ月未満	1ヶ月～3ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～2年未満	2年以上	計		
男	1	3	7	11	1	23		
女	0	1	3	1	0	5		
■開所日数および利用者数・利用日数（令和3年3月31日現在）								
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	
開所日数		21	20	21	21	21	21	
実人数	男	18	18	19	19	20	20	
延べ利用日数		21	0	90	97	100	100	
実人数	女	1	1	1	1	1	1	
延べ利用日数		0	0	4	3	4	4	
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数		23	20	21	21	20	22	252
実人数	男	20	19	20	22	23	23	241
延べ利用日数		103	85	73	95	94	87	966
実人数	女	4	4	5	5	5	5	34
延べ利用日数		4	12	13	16	16	18	94
■住所地（令和3年3月31日現在）								
	小田原市	中井町	大井町	松田町	開成町	伊勢原市		
男	16	3	0	0	0	1		
女	1	0	0	0	0	0		
■入退所状況（令和3年3月31日現在）								
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	
入所	男	8	0	1	0	1	0	
	女	0	0	0	0	0	0	
退所	男	0	0	0	0	0	0	
	女	0	0	0	0	0	0	
計								
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所	男	0	0	0	1	2	1	14
	女	1	2	0	1	0	0	6
退所	男	1	0	0	0	1	0	2
	女	0	0	0	0	0	0	0
■利用の経緯（令和3年3月31日現在）								
	市町	発達相談	児童発達支援事業所	幼保	他			
男	9	7	5	0	2			
女	1	1	1	2	0			
計	10	8	6	2	2			

## 〔5〕令和2年度まとめ

項目	具体的活動	実施者	到達点	(評価○・△・×)	
				実施状況	評価
利用者支援	児童の正確な状態把握をしていくため、併行通園先の幼稚園・保育園を訪問し、個別支援計画に生かしていく	全職員	利用児全ての状態把握ができ支援計画に生かすことができた	コロナウイルスの影響もあり、訪問ができず。電話含めて状況把握には努めることはできたが、支援計画に生かすには至っていない。	△
検業と改善	安定した運営に向けた取り組み	全職員	開所日全てに空きがない	コロナウイルスの影響で業務縮小で継続していたこともあり、見学希望含めて利用の増員にはつながらなかった。	×

## 〔6〕防災

実施	実施内容	対象	振り返り
毎月1回	避難・通報・消火	全利用者	一人1回は体験できるよう曜日を変えて実施。それぞれがスムーズな避難ができるようになっている。

## 〔7〕リスクマネジメント（事故報告）

種類	回数	内容等
転倒／転落	1	転倒により顔面の擦り傷ができてしまった児童もありましたが、幸い大きなケガにはつながらず。
服薬	0	
ケガ	0	通院の必要のあるケガ等はありませんでした。
利用者トラブル	0	玩具の取り合い等のトラブルはありつつも、譲り合いもできるようになりトラブルは少なくなっています。
車両	0	
物品破損	0	
その他	0	

《重大事故》 ※県・市町へ報告 なし

## 〔8〕苦情解決

件数 0件

# 【 ぽけっと 】 令和2年度 事業報告書

## 〔1〕 運営目標

障害者就業・生活支援センターとして、「就職や職場適応などの就業面の支援や、生活習慣の形成や日常生活の管理など生活支援が必要な障害者に対して、就業に伴う日常生活、社会生活上の支援を行い、身近な地域で就業面及び生活面で一体的かつ総合的な支援を提供し、職業生活における自立を図る」を目的とした事業運営を基本に、職員のスキルや経験を活かしたライン制を構築し、より効果的な支援提供を目指します。また、これまで取り組んできた虐待防止体制を維持しながら、より良い相談支援の場として取り組めるように、登録者と同じ風景を観ながら各自の相談スキルの向上を図ることを運営目標とします。

## 〔2〕 年間のまとめ

障害者支援センター「ぽけっと」は「障害者就業・生活支援センター事業」については、県西障害保健福祉圏域において、障害種別を問わず障害のある人の就業に関する相談や支援および生活支援を行いました。

今年度も就職者数等の数値目標を掲げ、達成に向け積み上げを実施してきましたが、コロナ禍による求人数の減少、センターの活動自体の縮小、実習等受け入れ企業の激減により、目標達成には至りませんでした。コロナ禍においての取り組みでは例年にはない取り組み成果もありました。企業支援において、登録者の就労先の全事業所へ連絡をしたことにより、関りがあまりなかった企業とも再度連携することが出来ました。また、職場定着支援として、登録者がいない事業所からも障害者雇用の困り感の連絡が多く、事業主支援の構築を図りました。

新規登録への依頼も例年以上に多く、ケースが増えたことでライン制の連携においての今後の課題も見えてきました。

今年度のイベントは殆ど中止になり、「ぽけっとピア」・「合同ピア」の各1回ずつのみになりました。

## 〔3〕 次年度に向けて

引き続き、ライン制を維持し、求職支援から定着支援へのスムーズな引継ぎと効率的な支援の強化を図り、実績につなげていく意識を持ちます。ピア・勉強会・イベント等については、コロナ禍の状況を考え、この状況でも出来るような方法を検討し、実施できるようにしていきます。また、職員の資質向上のための所内研修の充実を図り、当事者支援の中で同じ風景を見られるようなスキル研修に取り組むを行います。

## 〔4〕登録者状況

■開所日数及び延べ相談支援件数(令和3年3月31日現在)							
月別							
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
開所日数	24日	21日	25日	23日	23日	23日	
相談支援件数	361	293	345	314	304	284	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数	25日	22日	23日	22日	21日	25日	277日
相談支援件数	305	259	284	281	279	301	3610
市町村別							
小田原市	箱根町	真鶴町	湯河原町	南足柄市	中井町		
1826	89	30	296	417	91		
大井町	松田町	山北町	開成町	その他	計		
221	132	155	114	239	3610		
■就業支援年間実績(令和3年3月31日現在)							
新規登録者数	職場実習 幹旋数	就職者数	1年以上 離職者数	1年以内 離職者数			
80(36)	18(8)	34(11)	22(7)	5(4)			
( )内は精神障害者の数を表す							

## 〔5〕令和2年度事業報告 ※各事業所の課題および実施状況

項目	具体的活動	実施者	到達点	実施状況	評価
権利擁護	地域診断を通じ、ぼけつとに要請される権利擁護の内容を明らかにする	恩蔵	要請される権利擁護の明確化	事業評価に基づくアンケートの作成、実施を経て、ナカボツセンターとしての権利擁護とは、と職員が考えるきっかけとなった。聞き取りまでに時間がかかり、またチェックリストの作成にも期間がかかったため、自己学習まで生かすことはできなかったが、端的な虐待防止にとどまらず、同じ風景を見るためのツールとしてチェックを継続的に行い、チェックリスト自体の内容の検討も含めて日々の業務で考えられるよう、取り組んでいく。	0
	その内容に応じ、必要な教育項目を作成し、チェックリスト化を図る	坂間	効果測定をチェックリストを通して定期的に行う。		
人材育成	支援記録をより良いものにしていく取り組みを行う。	全職員	開示に応じることのできる支援記録を作り上げる。	ケース検討については予定通りの実施は行えなかったが、困難ケースに当たる都度、ラインごとの検討を行った。回数を重ねることでそれぞれのケースへの見方が底上げされてきている。記録については継続的に進めることができ、より活用のしやすい形を検討することができた。今期はテンプレートの変更により、目的意識を面談・訪問において意識付けにつながった。	0
	ケース検討する力を所内で高め、支援力につなげていく。		年間を通じて計画的にケース検討を続け、スーパーバイズができる職員集団を目指す。		

業務の検証と改善	PKP（ぼけっと改善プロジェクト）の活動を組織に位置付けて実施する。	PKP 担当職員	<p>昨年度同様にPKPを組織化して、担当チームからの意見を反映させる。</p> <p>個々に帰属している業務を見える化して、仕事をシェア出来る仕組みを考えて導入する。</p>	<p>業務の見える化を年間・月間で行い、行事等の検討を行った。就労支援以外の事務的な作業も多く、事務の効率化、行事の目的、実施方法の確認を行い、より効果的な支援の為、職員の負担の分散についての検討を会議で行った。また、職場環境の改善として、レイアウトの変更・ハイタッチ代替案・緊急時の動きの決定を行い、エンゲージメント・貢献意識の向上につながると感じている。メンタルヘルスへの取組としては検討を継続していく。</p>	0
----------	------------------------------------	----------	--	--	---

## 〔6〕 リスクマネジメント（事故報告）

種類	回数	内容等
転倒／転落	0	—
服薬	0	—
ケガ	0	—
利用者トラブル	0	—
車両	1	狭い路地ですれ違い時に壁にミラーを擦ってしまった。
物品破損	0	—
その他	0	

《重大事故》 ※県・市町へ報告 なし

## 〔7〕 苦情解決

苦情件数 0件